

## 個人情報（思想、信条等に関する個人情報）の収集の 制限に関する意見について

（平成 6 年 10 月 1 日付け北海道知事あて  
北海道個人情報保護審査会答申第 2-2 号）

平成 6 年 10 月 1 日付け文書第 2102 号で諮問のありましたこのことについて、別添のとおり答申します。  
北海道個人情報保護条例第 7 条第 4 項の規定に基づく答申

類 型	収集する理由又は必要性
相談、陳情、要望、意見等の中で相談者等の意思により、思想、信条、信教等に関する個人情報が提供されるとき。	道民等から寄せられる相談、陳情、要望、意見等は、自己の意思に基づいて、自己の意見、考え方等を実施機関に知ってもらい、実施機関の適切な対応を期待するもので、その際、自己の思想、信条、信教等の個人情報が含まれることが考えられる。 この場合、これらの情報は、道民等から一方的に提供されるものであり、事務の目的の範囲内でこれらの個人情報を取り扱う限り、個人情報保護上の問題は起こらないものと考えられる。
刊行物等で一般に入手し得るものから収集するとき。	公に出版されている新聞や雑誌等に掲載され、既に不特定多数の者に公表され誰もが知り得る状態にある思想、信条、信教等の個人情報を実施機関の事務の必要性から収集することが考えられる。 この場合、事務の目的の必要最小限の範囲内で収集する限り、個人情報保護上の問題は起こらないものと考えられる。
海外からの研修生、来訪者の受け入れに際し、当該研修生等の宗教等に関する個人情報を収集するとき。	海外からの各種研修生や来訪者を受け入れるに当たっては、宗教に基づく食事の制限や生活慣習に違いがあることから、宗教に係る情報を収集し、研修生や来訪者に対する滞在中の適切な対応を図るため相手方の宗教等を承知しておく必要がある。
栄典、表彰の事務において被表彰者、候補者の犯罪歴を収集するとき。	栄典、表彰を行う場合、犯罪歴を有する者が被表彰者や候補者となることは、社会通念上、そぐわないものと考えられる。このため、候補者等の選考に当たっては、犯罪歴の有無を確認する必要がある。